

(仮称)中町「道の駅」の整備に向けた基本的な考え方について

報告書
平成29年6月
県土マネジメント部

1. はじめに

奈良市中町地内に位置する約4haの県有地であり、平城遷都1300年祭の際には、平城宮跡会場への「パークアンドバスライド駐車場」として活用された。

その後の活用については、地方創生に資する県北部地域の拠点となる「道の駅」方式を基本に検討を進め、今後の整備に向けた基本的な考え方を整理した。

2. 地域を取り巻く現状と課題

- ・県北西部には道路利用者の休憩施設が不足
- ・幹線道路の交差部であり、公共交通の結節点として機能しうる立地
- ・多くの観光資源に囲まれている周遊観光の拠点となる場所
- ・地元農家など生産者と消費者をつなげる場が不足
- ・周辺での宅地化が進み、集客が期待
- ・緊急輸送道路に接し、大規模災害時に参集しやすい場所

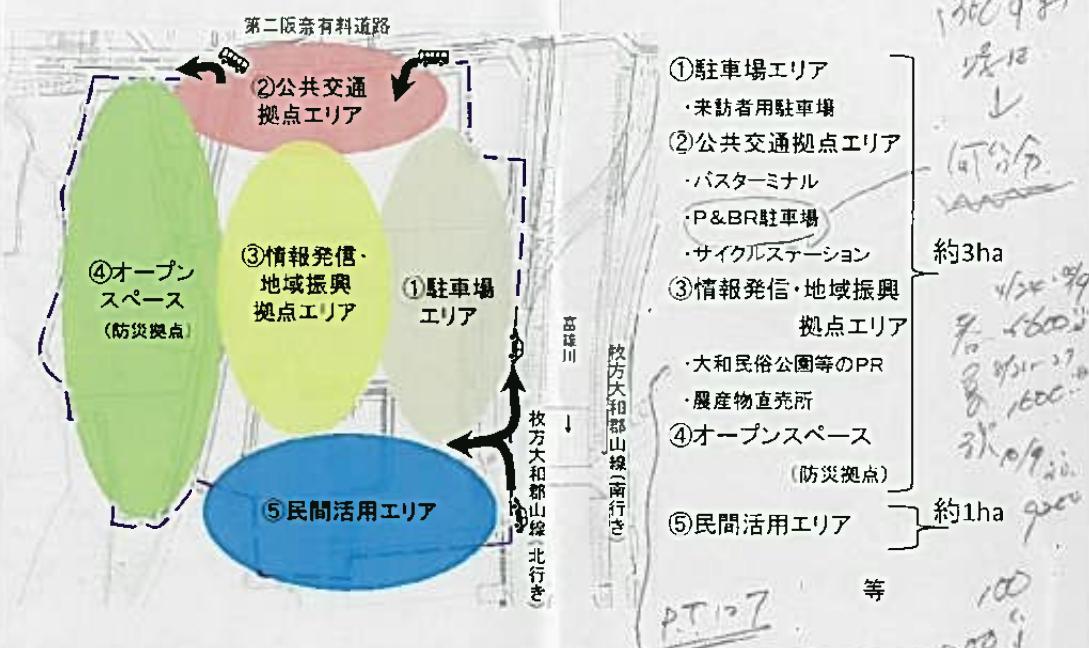


3. 道の駅のコンセプト

- ◆ 奈良の新しい顔となる公共交通の結節点
- ◆ 奈良観光のゲートウェイとなる情報発信拠点
- ◆ 地域の農産物や特産品を提供する直売所などの地域振興拠点
- ◆ 地域住民に「癒やし」と「くつろぎ」を提供できる空間
- ◆ 災害時には、広域防災拠点としての役割を担う空間

4. 道の駅の構成

計画地約4haについては、既往事例等を踏まえて、「道の駅」のコンセプトを実現するための面積を算出すると約3haとなり、残る約1haは一体となって整備効果を向上させるため、民間による活用を図るエリアとする。



5. 今後の予定

以下の事項について、整備の実施に向けた施設の具体化を図る。

- ・整備する各種施設の規模やレイアウト、敷地内の動線
- ・施設の管理・運営方法
- ・進入経路、出入口の位置、道路の新設や付替等
- ・民間活用の手法や手続き

3月-4月
=
完成時期